

1 学校教育目標

21世紀に生きる、心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人間尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。 ○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・笑顔のある学校⇒夢や希望、笑顔での挨拶、お互いを思い合い感謝できる ・あたりまえのことを大切にする学校⇒返事、学習規律、・ルールとマナー ・互いのよさを学び合い、教師間協働ができる学校⇒協働意識による学年全体の向上、学校運営参画意識の高揚 ・地域・家庭に信頼される学校⇒生命の尊重、安全で衛生的な教育環境
○児童・生徒像	・やさしい子⇒思いやりの心で自他の存在を尊重し、互いの関わりの中で高め合える子 ・考える子⇒基礎・基本を身に付け、見通しと振り返りによって自らの学びを進められる子 ・元気な子⇒すすんで心身を鍛え、健康と安全について考えながら生活できる子
○教師像	・情熱と使命感をもって、常に子供を中心に据えた指導を展開する教師 ・子供の目線や立場に立ち、その子供の良さを引き出し、子供の自己肯定感を高める教師 ・社会や時代の要請を敏感に捉え、自己啓発に前向きな教師 ・教師間協働により、学校経営参画意識をもち学び育て合う教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】「児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着」を目指して、学力向上プランに基づいて取り組んできたが、目標達成には0.5%及ばなかった。前年度は学力ポートフォリオを活用した研究授業と研修会の成果を日常化させるべく、全教員で検討・確認・共有を行う学力夕会を新たな取組として設けた。授業改善への意識向上に努めることはできたが、さらに日常の授業準備や教材研究に具体的に色濃く反映させ、単元ごとの短いスパンでの学力向上を図っていく必要がある。漢字の読み書きや語彙の修得、朝読書、四則の計算練習など基礎基本の徹底に加え、教員の学力向上に向けての主体的な取組の成果と課題を検証し、学年や学級間格差という課題改善に向けて組織的に取り組んでいく。

○【人権尊重】と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】全学年児童による本校の特色である「あいさつ活動」、年間を通じて展開している「言葉づかい重点週間」は、児童が集団生活や他者への意識を振り返り、それを高めるための有効な機会となった。一方で「いつでも、どこでも、誰にでも」といった定着の部分に関してはさらに継続して取り組んでいく必要がある。児童の学校生活の母集団となる学級の望ましい成長は、いじめの未然防止や授業での学力獲得の土台となっていくものであることから、引き続き年間2回実施するQ U調査の結果には特に注視していく。いじめの防止や個別に支援を要する児童の実態把握も含めて、児童カルテなど組織的な情報共有の仕組みをさらに充実させていく。

○【児童一人一人の体力の向上】一昨年そして昨年と体力状況調査の結果において全国平均値を上回る種目は全学年で減少している。特に低学年ではコロナ禍の影響もあって大幅に減少した。今年度は児童の実態に基づき各学年の不得意種目を明確にしながら、その克服に向けて計画的な体力向上の取組を施していくとともに、この状況を保護者とも共有して学校と家庭の両方向から体力の向上を目指していく。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止	○	○	○	○	○
3	運動に親しみ体力の向上	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着		4 月 区調査目標通過率 80% 年度末到達度診断通過率 80%		4 月実施区調査結果 国語／算数の通過率 学校 72.7％／66.9％ (2 科 69.8%) 2 年 55.1％／53.1％ 3 年 76.7％／81.4％ 4 年 73.5％／75.5％ 5 年 78.0％／58.0％ 6 年 79.3％／68.4％		R5 年度比 国語／算数の通過率 学校 79.5％／79.5％ (2 科 79.5%) 国語 (－6.8%) 算数 (－12.6%) 2 科 (－9.7%) ・国語と算数ともに通過率が目標である 80％ に大きく及ばなかった。今年度は特に 2 年生 の国語・算数と 5 年生の算数が突出して低か ったため、重点的に授業改善による学力向上 に取り組んだ。次年度は授業改善プランの進 捗確認頻度を上げて実効性を高めていく。		●	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	日常的な 指導方法の 改善 学力ポート フォリオの 活用	全学年 国語 算数	進捗 確認 毎月 研修 12 月	○担任・専科・管理職 単元末テストに向けてつま ずきを出さない指導検討・授 業改善に努め、結果に応じた 補充学習を行い短期間で のつまずき改善を行う。	実施ごとに 結果を報告	単元ごとに 正答率 85%以上	単元テスト正答率 学校(国)82% (算) 79% 1 年(国)87% (算) 92% 2 年(国)81% (算) 86% 3 年(国)83% (算) 85% 4 年(国)75% (算) 68% 5 年(国)82% (算) 69% 6 年(国)83% (算) 76%	・各学年や学級におい て過去のポートフ ォリオや授業改善 プランに基づいた 取組を行った結果、 正答率全体平均値 は約 80%となった。	△

2 継続	PU タイム (朝学習)	全学年 国語 算数	毎週 火木金 朝 15 分	○担任、学習支援員 音読、読書、読み取り、漢 字、AI ドリル、東京 BD	到達度診断 正答率 実施ごとに 結果を報告	正答率 80%以上	・12 月到達度診断 国語／算数の正答率 学校 62.8%／ 61.9% (2 科 62.4%) 1 年 83.9%／89.3% 2 年 75.1%／80.3% 3 年 52.5%／60.3% 4 年 54.7%／48.5% 5 年 54.5%／40.3% 6 年 56.2%／52.9% ・2 月到達度診断 国語／算数の正答率 学校 75.9%／ 74.6% (2 科 75.3%) 1 年 90.2%／ 91.4% 2 年 85.2%／ 87.8% 3 年 81.3%／ 81.0% 4 年 76.4%／ 74.5% 5 年 58.9%／ 51.5% 6 年 63.2%／ 61.4%	・12 月時点での正答率 は昨年度の課題で あった様々な出題 形式に不慣れな 1・2 年生で改善が 見られた。一方で3 年生以上が昨年度 の正答率と比較す ると低下が見られ るため、つまずきの 解消に努めていく。 ・2 月の正答率は全学 年で 12 月より向上 が見られた。しかし ながら高学年での 改善率が大変厳し く、目標正答率に5 ポイント届かない 結果となった。	△
3 継続	学校図書館 の活用	全学年 国語	①年間 朝読書 ②年間の貸出 期間中	○児童 ①目標達成者を表彰。 強化旬間を年 2 回実施。 ②読書旬間に図書委員会と 連携し、味見読書など本に興 味をもたせる活動を行う。	読書記録カー ドに記録 貸出冊数記録	①月 2 冊 年 24 冊読書 ②児童一人当 たりの貸出冊数 を 20 冊以上	① 学校 87% 1 年 77% 2 年 96% 3 年 88% 4 年 95% 5 年 79% 6 年 82% ② 学校(平均 26 冊) 1 年 30 冊 2 年 44 冊 3 年 39 冊 4 年 31 冊 5 年 12 冊 6 年 4 冊	① 過去 3 年間の推移 で 56%⇒78%⇒88% と順調に向上した 結果を維持するこ とができ、課題で あった高学年の読 書活動にも改善が 見られた。 ② 目標冊数を昨年度 の 12 冊から今年度 は 20 冊以上に引き 上げたが、無事に目 標を達成すること ができた。	◎

4 継続	I C T機器 の活用	対象学年 全教科	①週3回 以上 ②週3回 以上 ③半期1 回以上	○教員 ①児童が児童用タブレット 端末を用いる授業を実施。 ②対象学年児童にA Iドリ ルによる個別学習を実施。 ③プログラミング教育実施。	週の学習計画 教員の申告	・実施した教員 の割合各90% 以上	①前期 66.7% 後期 83.3% ②前期 90.0% 後期 95.0% ③前期 76.7% 後期 81.7%	①低学年のタブレッ ト利用率が低いた め、次年度は出前授 業を計画していく。 ②教員研修を充実さ せ、宿題等で日常の 利用率向上を図る。 ③前期実施率が昨年 度(66.7%)より向上	△
5 継続	学力タ会	全学年 国語 算数	毎月 最終 月曜日	○教員 各学年からの学力向上に向 けた取組やその成果と課題 を日常的に情報共有し、学習 内容の系統性も意識しながら 授業改善を図っていく。	月行事予定表 ・週案に明記	年間10回実施	昨年度から開始し た学力タ会であるが、 校内OJT研修と合わせ て年間20回以上実施 し、学力向上に関わる 多くの知見や様々な 工夫について学年を 越えて全体共有する ことができた。	日常的な授業改善を 図る機会として定着 してきた。今後は形骸 化を防ぐため、内容の 工夫や学年独自の発 想を生かした取組な ど、より主体的な教員 の会としていきたい。	○
6 新規	P. S. Meeting	全学年 国語 算数 学級経営	各学年 毎月 1回 程度	○教員 各学年の主体的な学力向上 の取組の状況・成果と課題に ついて管理職と検証しながら 適宜改善を図っていく。	月行事予定表 ・週案に明記	各学年 年間10回実施	区学力調査の結果 を受け、児童の学力補 充にあてる時間確保 のため、次年度以降に 実施することとした。	学力向上の課題を 克服し、学びの場であ る学級の状況を組織 で細やかに検討する 場を設けていきたい。	●
7 新規	安心感ある 授業づくり	4～6年 学習指導	4月 12月	○教員 質問紙調査にある学習指導 の工夫6項目について初期 状態からの改善を図る。 a)できた・分かったと感じる b)既習事項を使って考える c)他教科の学習内容を活用 d)友達の考えから学ぶ e)考え方を他者に伝える f)学んだことを振り返る	質問紙調査 結果の比較	肯定的回答 割合の増加	肯定的回答割合 ＜前期＞平均82.6% a)94.7%、b)89.5% c)75.4%、d)78.6% e)76.4%、f)81.2% ＜後期＞平均83.7% a)96.5%、b)86.4% c)70.4%、d)81.7% e)82.2%、f)85.2%	今年度からの新規 項目であったため、 現状についての把握 と理解に努めながら 取り組んできた。授 業改善プランの視点 として、今後も安心 感ある授業づくりに 継続して取り組んで いきたい。	○

重点的な取組事項－２		「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
友達に対して、いつでも優しい言葉かけができる。		言葉遣いアンケート「強い言い方や冷たい言い方にならないよう気を付けている」の児童の割合が 90%以上。	・言葉遣いアンケートで、「強い言い方や冷たい言い方にならないよう気を付けている。」は平均 93%。「相手や場面に合わせて、言葉を使うことができる。」は平均 95%と高い肯定的回答が得られた。 ・1 回目より 2 回目と、アンケートの回数を重ねる毎に数値が向上して	・年間 3 回の重点週間の取組により、言葉遣いに対する意識をある程度維持することができた。取組期間だけでなく日常的な意識向上を図りたいが、インターネットによる子供たちへの負の影響が大きい。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
心の教育を充実させる。	・各々の違いが分かり、認め、生かしていける態度が身に付く。 ・Q Uでの学校生活満足群に属する児童が増える。	・いじめ防止対策の一環として、道徳授業を充実させる。 ・お互いの良さを認め合える学級活動を充実させる。 ・縦割り班活動での遊びや異学年との交流活動を行う。	・道徳授業地区公開講座では何気ない毎日の生活の中にある「当たり前」の大切さについて全校児童で学んだ。その学びを学習発表会で他学年児童や保護者・地域の方々に発信し、より一層理解を深めていくことができた。 ・Q Uでの学校生活満足群に属する児童は前期 50%、後期 48%、平均 49%と全国平均 43%を上回る結果となったが、過半数以上にあと少しで届かなかった。	・命の大切さ、平和な生活、温かな人との関わりなど、身の回りにある当たり前の大切さに気付くことで、心の教育を充実させることができた。 ・最もケアを必要とする要支援群に属する児童の割合を、後期は学校全体で 2.4%減少することができた。	◎

挨拶・言葉遣いの意識を高める。	・すすんで挨拶ができる。 ・場に合った言葉に気を付けて遣い分けができる。 ・敬称をつけて名前を呼ぶことができる。	・指導の進捗を確認しながら教員の意識を高め、より良い方法を工夫させる。 ・児童の挨拶運動を拡張する取り組みを企画・計画させる。	・全学級全児童による登校時間帯の「あいさつ活動」は定着しており、立ち止まって相手よりも先に、相手の名前を呼んでから挨拶できる児童が低学年の中で増えていった。 ・日々の挨拶励行は宿泊行事や社会科見学など学校外での活動時にその成果が発揮されている。	・あいさつ運動や言葉遣い重点週間期間中は言葉遣いに対する意識の向上が見られるが、「いつでも」・「どこでも」・「誰にでも」という日常化が引き続き課題となっていく。	○
特別活動を充実させる。	・自己評価で肯定的に評価できる。 ・努力している自分を認めることができる。	・児童の活躍の機会を増やし、自己肯定感・自己有用感を高める。 ・めあてをもって行事に取り組み、自己の取組について過程や結果を振り返らせる。	・全国学力・学習状況調査において「自分にはよいところがある」の肯定的回答はやや低いものの、「将来の夢や希望をもっている」の肯定的回答が都の平均値を上回る 82.1%となっている。	・日常生活や行事を振り返る中で、結果だけではない取組における自己の成長に尚一層気付けさせていきたい。	○

重点的な取組事項－3		健康な体づくりと体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
すすんで運動しようとする態度を育てる。		体力状況調査結果で都平均を下回る種目数を削減する。特に課題である上体起こし・立ち幅跳び・シャトルランについては体力向上委員会ですpecificな策を検討していく。	・全国平均を上回った種目数の増減 1年男子+1種目 / 女子+2種目 2年男子+1種目 / 女子-2種目 3年男子+3種目 / 女子+4種目 4年男子+1種目 / 女子-1種目 5年男子+4種目 / 女子+5種目 6年男子-1種目 / 女子+4種目 ・昨年度全国平均を上回った種目数を今年度は倍増することができた。	2年連続で調査結果が不振で終わったため、目標値ハードルを全国平均から都平均に下げたが、粘り強い取組の成果からか全国平均を上回る種目数がどの学年でも向上した。今後も継続してこの状況を維持向上させていきたい。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

体育授業の充実	・昨年度体力状況調査結果で全国平均を下回った種目を1種目減らす。	・めあてをもって体育の学習に取り組み、自己評価しながら運動を工夫するための「体育学習ノート」の実施率を向上させる。	・今年度の体力状況調査結果では大きな改善が見られた。昨年度の課題であった瞬発力と柔軟性においては多くの学年で全国平均値を超えることができた。 ・学習ノートを利用した授業の実施 学校平均 79% (昨年度 68%) 1年 60% 2年 90% 3年 70% 4年 100% 5年 65% 6年 90%	コロナ禍での児童の体力低下を体育授業の充実だけで改善していくことは困難であった。今後は小さな取組であっても多数回、継続して実施していくことで少しでも体力の向上を図っていききたい。	○
体力向上のための行事の充実	・休み時間に校庭に出て運動に取り組む児童の数を増やす。	・年間を通して運動が継続できるように体育的行事の内容や方法を改善するとともに、児童の主体的な活動場面を増やすよう工夫していく。	・マラソン練習、大なわや短なわなど体育的行事の活動中は、子供たちも楽しみながら教員も一緒に体を動かすことができた。しかし昨年度以上の酷暑の中では、外での活動自体が危険な状態である。	年間を通じた体力的行事は限られていることから、夏場の休み時間には空調の利いた体育館をローテーションで活用するなどしていく。	○
運動に向かう環境づくり	・運動する場に参加する児童数を増やす	・休み時間の中で友達と一緒に楽しく遊びながら体づくりができる学級あそびを企画して、その機会を増やしていく。	・体育主任が発案した休み時間の「鉄棒教室」には興味ある児童が自分から集まってきている。遊びの要素も入れながら楽しく運動できる場の工夫をすることができた。	休み時間に教室でタブレットを使用している児童も少なからずいるため、学級遊びを定期的に行うなどの働きかけが必要である。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○【児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着】

「児童一人一人の基礎・基本の学力の確実な定着」を目指して、算数では全学年で学力ポートフォリオを活用した研究授業と研修会を2回に分けて実施した。管理職から教員へは子供にとっての「安心感ある授業づくり」といった視点からも指導・助言を行うとともに、全体研修会では誤答傾向だけに終始することのないよう、各学年から具体的な問題を一題選び出してその効果的な指導方法についての改善提案を行い、全教員で検討・確認・共有を行った。これまで蓄積された学力ポートフォリオによる授業改善を日常化させるため、現在の「つまずき改善」の後には、「つまずかせない授業づくり」を学力向上のメインテーマとして取組んでいきたい。

国語では「書くこと」についての研究十年間の五年目に入り、相手意識・目的意識・場を明確にさせることは完全に定着できている。そこに推敲の視点を加えることで、児童が自分の考えをより明確に文章で表せるよう指導方法の研究を行った。一方で学力調査等の結果からは、限られた時間内で問題を解くために必要な語句への着眼点や、求められる条件に応じた答え方などが継続課題となっている。文章の主旨を短時間で掴んだり、問われている内容に正対するなど、書くことに留まらず、その力を学力として発揮するための力もまた育んでいかなければならない。

弘一タイム（パワーアップタイム）では、漢字の読み書きや語彙の修得、朝読書、四則の計算練習等を通じて基礎基本の徹底について取り組んできました。夏休み明けからはさらなる基礎学力の定着を必要とする児童のために、放課後の時間帯も活用しながら学習における自己肯定感の向上も図った。今年度はつまずき改善に多くの時間と労力を費やしてきたが、次年度は昨年度新設した学力夕会に加えて、「教師の授業」と「児童の学力」の相関を単元等のできるだけ短いスパンで振り返る日常的な手立てを実現していきたい。

○【「人権尊重」と「思いやりの心」の育成を通したいじめ防止】

今年度は道徳授業地区公開講座や学習発表会を通じて、児童の心の育成に努めてきた。多くの人権課題について正しい理解を進めるために、まずは足下の「当たり前と思えること」に焦点を当てながら各学年の発達段階に応じて学習を進めていく必要がある。「友達の存在」「通学路や学校」「自分達の住む町」「食」「水」そして「人権」。当たり前だと思っていたことが、決して当たり前ではないことに多くの児童が気付く機会とすることができた。こういった道徳的な価値を涵養してきたこれまでの「あいさつ活動」「縦割り班活動」「言葉づかい重点週間」をさらに充実・発展させていくとともに、PTAや開かれた学校づくり協議会主催の各種イベントを、道徳的実践力を発揮させていただく場として引き続き大切にしていきたい。

○【児童一人一人の体力の向上】

一昨年度から昨年度へと体力状況調査の結果は芳しくない状態が続いており、課題であった2種目（握力・投力）に改善が見られると、今度は別の2種目（瞬発力・柔軟性）が新たな課題となった。学力調査と同様に年に一度の調査であることから、種目慣れしていなかったり、試技が少なかったりなどの影響が少なからずあると考えられる。そこで今年度は、調査種目についてのポイントを事前に明確にして取り組むなどの手立てを講じたところ、全国平均値を超える種目数が倍増するに至った。調査結果そのものに向上は見られたが、日常的に運動に慣れ親しむことでコロナ禍以前の体力を取り戻せるように、今後も継続して体力向上に努めていく。

○【ICT機器の活用】

子供たちが授業時に教科書やノートと同様にタブレットをツールとして学習に使っている姿は日常的な光景となってきた。瞬時に児童の状況を把握できる各種調査やアンケートなども学習とはまた別のところで利便性が高く、今後も活用の幅を広げていきたい。次年度に向けた課題としては、AIドリルの尚一層の活用が挙げられる。使用する場面や内容が学年や学級担任に委ねられており、利用状況に格差が生じ始めている。これを受けて年間を通じてある程度の活用が見込まれるよう、パワーアップタイムや宿題などきちんと設定された共通場面で組織的に活用を推進していく。また使えば良いという安易な考えではなく、学力向上との相関に基づいた効果的な活用を、引き続き検証していく必要がある。さらに本校ではまだ事例がないが、他校ではSNSなどによる教師や保護者に見えづらい場でのトラブルが増え、生活指導上で好ましくない情報が児童の間で行き交っていると聞く。こういった現状を踏まえ、次年度は情報リテラシー教育について学ぶ場を設けていきたい。

（２）保護者や地域へのメッセージ

○本校では、開かれた学校づくり協議会が主催者となり、日本漢字検定協会の漢字検定や日本数学検定協会の算数検定の準会場として、今年度も検定試験を実施することができました。平成25年9月より始めた漢字検定の全員受検を目指した廃品回収は、令和に入った現在も継続しています。日常的に多くの保護者や地域の方々が、古紙やアルミ缶を持ち寄ってくださり、その収益をもとに今年度も2月に2～6年生全員が、ご家庭からの負担なしで漢字検定を受検することができました。この取組は創立50周年を機に基金が設立され、平成30年度には足立区ビューティフル・スクール運動の特別表彰を受賞しました。次年度の創立60周年を目指して、皆様のご協力のもと引き続き実施していきたいと考えています。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

○開かれた学校づくり協議会やPTA・地域の皆様と協働して、アフターコロナにも変わらず子供たちのために様々なイベントを実現することができました。以下に主なものを挙げさせていただきますが、普段の学校生活では見られない子供たちの笑顔をたくさん目にすることができ感謝しております。

- ・ 6月10日（月）道徳授業地区公開講座…吉見啓佑指導主事を講師にお迎えして、児童・保護者・地域の皆様で道徳教育について学びました。
 - ・ 7月 6日（土）PTA夏祭り…金管バンド&教員との共演でスタートし、児童はPTA・地域・教職員のブースで楽しい時間を過ごしました。
 - ・ 7月27日（土）カレーランチ会①…学校の畑で収穫された夏野菜のカレーを、第一回は低学年の児童が美味しくいただきました。
 - ・ 8月26日（月）～30日（金）朝のラジオ体操…近隣町会の皆様と子供たち。老若男女が一堂に会して、朝からラジオ体操で体を動かしました。
 - ・ 8月31日（土）新聞ドームづくり…Jrリーダーのご指導のもと、参加者全員で新聞をつなぎ合わせて巨大なドームを完成させました。
 - ・ 10月 3日（木）弘一落語会…林家たけ平師匠をお招きして、4・5・6年生が落語鑑賞をさせていただきながら言葉の力を豊かに育みました。
 - ・ 2月15日（土）カレーランチ会②…7月に続き、今回は高学年を中心に季節感ある冬野菜を使ったカレーで美味しい思い出づくりができました。
- このようなイベントに加えて毎月一回、子供たちの安全安心のために学校・PTA・警察・地域のたくさんの皆様にお集りいただき、地域パトロールを実施していただきました。7月には綾瀬警察署長より、地域の防犯に対する貢献活動として表彰していただきました。弘道の宝物である子供たちを、地域の皆様全体で見守っていただけることを大変にありがたく感じております。
- 弘一プレイランド（あだち放課後こども教室）では子供たちが安心・安全に放課後を過ごすことができるよう、スタッフの皆様が日々ご尽力してくださっております。また土曜事業のコアラくらぶの皆様からも、同様に多くのお力添えをいただいております。こうした皆様からのご尽力のおかげで、弘道第一小学校の子供たちの心と身体の成長は支えられております。来年度は開校60周年を迎えることとなりますが、今後とも皆様の力強く温かなご支援・ご協力を賜れますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

（３）その他（学校教育活動全般について）

- 昨年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、コロナ以前に近い形での教育活動を再開することができるようになりました。しかし単なる再開ではなく、困難なコロナ禍で得られた知恵や工夫をプラス面で活用したスクラップ&リビルドを大切にするとともに、昨今の社会情勢の変化に遅れをとらぬよう、教職員やPTA・地域の皆様方のウェルビーイングを大切に持続可能な教育活動の実現を目指してまいりたいと思います。学校評価では教職員に対する労いの言葉が多数寄せられ、我々の大きな励みと自信になりました。また、いただいた貴重なご意見やご要望については、改善に向けて検討を進めてまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。
- 5年生の鋸南自然教室・6年生の日光自然教室（冬期に日程変更）は今年度も2泊3日で実施され、充実した宿泊行事を成功させることができました。また各学年の遠足や社会科見学、校外学習なども、学年教員が子供たちのために工夫した計画通りに実施することができました。次年度の5年生は、鋸南宿舍改築工事のため自然教室は那須甲子での実施となります。
- 縦割り班活動など本校の特色でもある異学年交流活動も通常通り実施できました。今年度も児童の自主性を大切にしながら行われていく中で、特に6年生のリーダーシップが見事に発揮され、学年を越えた心あたたまる光景を日常的にたくさんの場面で見ることができました。
- 「学習発表会」では子供たちの日々の学習活動をもとに、「愛、平和、幸せ～当たりの前の毎日って何だろう？」をテーマとして各学年が工夫を凝らした発表を創り出しました。運動会や音楽会のような華々しい光景はそこにはありませんが、子供たちの真っ直ぐな心、それを支える教職員の親身で熱心な指導があり、保護者の方や地域の皆様方の心にきっと届いたことと思います。弘道第一小学校を支える「当たり前」の大切さを子供たちが考える機会とさせていただけたこと、改めまして感謝申し上げます。どうもありがとうございました。